

まだ太陽がキラキラと照りつける16時過ぎ、新田テニス広場に小学生が集まってきました。新富ジュニアソフトテニススポーツ少年団に所属している彼らは、準備が終わると思いい思いに練習を始まりました。その様子を、号令をかけることもなく静かに見守っているのは、指導者の平林美則（ひらばやしのり）さん。テニス歴60年の大ベテランは、練習を自由にさせて気長に見守る、というスタンスを貫いています。

「スポーツは楽しんで持続させることが大事だと思う。テニスでなくてもいいんだけど、中学、高校、社会人と違うステージへ進んでも、スポーツを楽しく続けてほしい。厳しくしなくても、子どもは自分たちで覚えていくよ。その分、よく観察して、変なフォームは直すし、ふざけていたら叱るけどね」

指導者として多くを語らなくても、高学年の子が中心となって、子どもたち同士で互いに指摘し合いながら、上達していくといえます。

教え子の中には、卒団しても少年団へテニスをしに来てくれる子もいるそうです。この日も、元教え子の高校生が子どもたちとボールを打ち合っていました。

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#014 今月の新富人

1949年生まれ、新富町出身。中学生でテニスを始め、20歳頃から指導に携わるようになる。元郵便局員。2010年から新富町スポーツ少年団本部長。現在、新富ジュニアソフトテニススポーツ少年団で指導をしている。テニスに限らず球技全般が好きで、ソフトボールやバレーの審判資格も持っている。

新富町スポーツ少年団本部長 平林美則さん

平林さんは「OBがくると、子どもたちにとっていい目標になる」と嬉しそうに見つめていました。

少年団の指導者になるきっかけは、自分の娘にテニスを教え始めたことだったそうです。ちょうどコンピュータゲームが流行り始めた頃で、多くの子どもが家にこもってゲームばかり。私たちは危機感を募らせていました。そこで、外出を促すために、屋外の遊びとして教え始めたのがソフトテニスでした。そこから徐々に地域の子どもたちにも教えるようになり、新富ジュニアソフトテニススポーツ少年団を立ち上げることになったそうです。



※学校の働き方改革に伴い、教師による休日の部活動指導を行わない仕組みづくりが、令和5年から段階的に実施される予定。

「低学年の頃は言うことを聞かなかった子どもが、高学年になるにつれて人間的にもテニスの実力も成長していく。そんな子どもの変化を間近で見られるのが、指導者の一番の魅力だね」

現在、新富町スポーツ少年団本部長も務めている平林さん。近いうちに後進に本部長の座を譲り、テニスの指導一本に絞るつもりです。

「テニスの指導は今後もずっと続けていきたい。令和5年には学校の先生が土日に指導できなくなる(※)でしょう。代わりの指導者をどう育てるかといった課題はまだまだあるね」

大好きなテニスのために、何より子どもたちために、やりたいことは盛りだくさんです。

●新富ジュニアソフトテニススポーツ少年団に興味のある方は、生涯学習課までご連絡ください。 生涯学習課 ☎33・1022

